

呉羽山観光協会 創立 50 周年記念講演

本能寺の変と 越中富山

異聞 本能寺の変 — 『乙夜之書物』 が記す明智光秀の乱 —

日 時：11 月 13 日（土）午後 1 時 30 分～

場 所：呉羽ハイツ

講 師：萩原 大輔 氏（富山市郷土博物館 主査学芸員）

天正10年（1582）6月2日に起こった「本能寺の変」近年見つけた『乙夜之書物』という史料からは、通説とはかなり異なる様々な事実が記されていた。光秀本人は本能寺に攻め込まず、鳥羽に控えていた！？など信長の死は列島社会全体に衝撃を与え、北陸も例外ではなかった。

その時、富山は！？

本講演では、本能寺の変を軸に、当時の富山の政治情勢をふまえながら、光秀の乱の歴史的意義を検証。

募 集：100 名迄

申込先：呉羽山観光協会

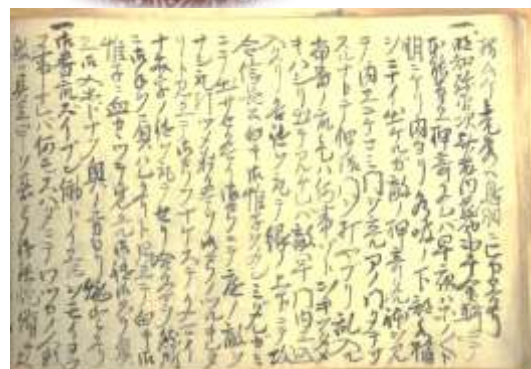
方 法：メールにて申込・問合せ

Mt_kureha@yahoo.co.jp



呉羽山観光協会 Mail
Mt_kureha@yahoo.co.jp

※『乙夜之書物（いつやのかきもの）』：加賀藩の兵学者・関屋政春（せきやまさはる）が、古兵らから約 500 件の「武辺噺」を聞き集めて簡条書きに書き著した本。全 3 巻で、自筆本が現存する。



講師プロフィール

萩原 大輔（はぎはら だいすけ）氏 富山市郷土博物館 主査学芸員

1982年生まれ、滋賀県出身。富山市在住。妻1人。子ども1人。山口大学人文学部卒業、京都大学大学院文学研究科修士課程修了。博士（文学・京都大学）。平成21年4月富山市郷土博物館へ着任。

平成27年4月より現職。越中史壇会研究委員。加賀藩研究ネットワーク運営委員。金沢城編年史料編纂協力員。

専門は日本中世史。室町・戦国時代の政治や社会、北陸の地域史などに関する調査研究を進めている。近年は、本能寺の変について再検討を行っている。



【著書】

『武者の覚え 戦国越中の覇者 佐々成政』（北日本新聞社、2016年）

『謙信襲来 越中・能登・加賀の戦国』（能登印刷出版部、2020年）

【主な論文】

「大内氏の袖判下文と御家人制」（『古文書研究』68号、2010年）

「天正年間中期の富山城」（『富山史壇』161号、2010年）

「関白秀吉越中出陣に関する基礎的考察」（『富山史壇』162号、2010年）

『『佐々成政』を捉えなおす』（富山市郷土博物館『秀吉 越中出陣』2010年）

「中世『名を籠める』文書論」（『史林』93巻6号、2010年）

「足利義尹政権考」（『ヒストリア』229号、2011年）

「秀吉越中出陣をめぐる政治過程」（『富山史壇』167号、2012年）

『『武者の覚え』佐々成政』（富山市郷土博物館『戦国越中の覇者 佐々成政』2013年）

「中世後期大内氏の在京雑掌」（『日本歴史』786号、2013年）

『『佐々成政のさらさら越え』ルート私考』（『富山史壇』172号、2013年）

『慶長富山大火』をめぐる言説と実相』（『富山史壇』174号、2014年）

「前田利長隠居政治の構造と展開」（『富山史壇』178号、2015年）

「陶晴賢の乱と大内氏」（天野忠幸編『松永久秀』宮帯出版社、2017年）

「越中からみた上杉謙信」（富山市郷土博物館『謙信 越中出馬』2017年）

「上杉謙信の北陸出兵」（福原圭一・前嶋敏編『上杉謙信』高志書院、2017年）

「佐々成政ゆかり「磯部堤の一本榎」と翁久允」（『とやま文学』36号、2018年）

「高岡山瑞龍寺伽藍の創建」（『富山史壇』186号、2018年）

『『乙夜之書物』に記された「佐々成政のさらさら越え」』（『富山史壇』187号、2019年）

「前田利長菩提所の成立過程」（早島大祐編『中近世武家菩提寺の研究』小き子社、2019年）

「佐々成政の富山浜松往復と安曇郡」（『信濃』71巻12号、2019年）

「大内弘世」（亀田俊和・生駒孝臣編『南北朝武将列伝 南朝編』戎光祥出版、2021年）

『『乙夜之書物』に記された本能寺の変』（『富山史壇』194号、2021年）

「戦国期大内氏分国下向公家と「陶隆房の乱」」（『日本文学研究ジャーナル』19号、2021年）

【所属学会】

日本史研究会、史学研究会、大阪歴史学会、日本古文書学会、日本歴史学会、中世史研究会、越中史壇会、加賀藩研究ネットワークなど